第八講　現代社会論

「さまよえる」日本人という場合の「[A]さまよえる」は「目標を失っても静止し得ない状態」を意味する言葉であろう。確かにいまの日本には全国民的目標らしきスローガンはないし、同時にそういうスローガンがないのを当然として、その状態で自若（じじゃく）としているわけでもない。では、各人の実生活に大きな革命的変化が生じ、それによって国民的な不安が生じたのかと言うと、そういうわけでもない。否、むしろ逆であって、急に目標が失われ変化がとまり、この「現実」の急停車のため、今までの惰性で精神だけが在来の方向へよろめき出ていると言った状態がこの「さまよえる」なのであろう。とすると、無目的な放浪を当然の状態とするという意味での「さまよえる」でもないわけである。この状態は簡単に要約すれば、何やら目標と変化が欲しいのだが、だれもそれを与えてくれず、といって、到達した安定を失うという犠牲を払ってまで自己の意志で何かをしてこの状態を変えたいとも思っていないが、しかし現状にも不安と不満があるといった状態である。

だが考えてみれば、人類の長い歴史においては、いわば各民族がそれぞれ独自の文化（ウェイ・オブ・ライフ）をもち、その基準で生きるのを当然としていた時代には、この状態がむしろ当然の状態であり、その状態を生きるという実績の積み重ねだけで、それぞれの文化を形成して来たはずである。だが明治以来の日本、特に戦後の日本はこの[B]ごく当然のことを忘れてしまった。そしてそこに必ず全国民的な目標を示すスローガンがあり、同時に到達すべき目標が国外を基準に設定され、全員をそれに指向さすべくマスコミが動員された——そして全国民が常に何らかの形でそれへの参加を、少なくとも心理的な参加を強要されると言った状態であった。その状態はセールスマンのミーティングに似た精神状態であったとも言える。

そしてこの長いスローガン時代、揚げられた目標はさまざまであったとはいえ、その共通の主題は、前にも記したが「[C]負の充足」であったことは否定できない。いわば戦後の一時期——というよりむしろ全期を通じて——その主題は「まだ民主化が足りない」であり、ついで経済成長時代に入ると「所得倍増論」という形で「まだ収入が足りない」がそれに付加された。そして社会のあらゆる問題は「足りない」という現象から起こるのだから、この「負」を充足すれば問題は解決するとされ、それが国民的目標にされた。従ってこれへの心理的参加が可能の間は「さまよえる」といった心理状態を生み出す余地はなく、逆に全員

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

がある方向に一斉に心理的に動き出すか、動き出しているものに参加していると錯覚することによって、ある種の安心感を保持しつづけていたわけである。

もちろんこの経済成長に実質的にも心理的にも参加し得なかったか、参加し得なかったと感ずる人びとをも生じ、この人びとは逆に一種の挫折（ざせつ）感を味わった。しかしこの問題に対してもなお、その部分を「負」と見なし、この「負」を充足するという形で、この考え方の延長線上で福祉を充実すればよいと考えられ、一時はそれがスローガンとされた。だがこのスローガンは、当然ながら、大部分の人が成長に参加していると感じ、一部にそれに参加できない人がいると感じている間しか力をもち得なかった。

またこれとは違った形の、経済成長によって生じたさまざまな格差を「負」と見てこれを充足するというスローガンも、同じように成立し、同じように消えて当然であった。そして最終的に従来の「負の充足」のスローガンが成り立ち得ない状態が現出したとき「さまよえる」といった状態を現出したと見るべきであろう。

（山本七平『日本人の人生観』）

問１　傍線部Ａの「さまよえる」の定義として、正しいものを○、ただしくないものを×、とせよ。

①　スローガンが成り立ちにくい事態を、当然のものとして受け入れている状態。

②　現実が止まってしまったにもかかわらず、精神はもとのままに働いている状態。

③　目標や変化を欲するものの、今の安定を失ってまで変革したいとも思わない状態。

④　「足りない」事態に対し、心理的に参加することによって安心感を得ようとする状態。

問２　傍線部Ｂの「ごく当然のこと」とは、どういうことか。次の中から、最も適当なものを一つ選べ。

①　スローガンのないことを当然として、自若としていること。

②　国民的スローガンが設定されていても、安易に参加しないこと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③　各民族は、独自の文化をもっているのであるから、それを失わないようにすること。
④　不安と不満がある状態を当然のこととして、積み重ねていくこと。

問３　傍線部Ｃの「負の充足」とは、具体的にどういうことか。次の中から、最も適当なものを一つ選べ。
①　国民の「足りない」という心理状態を利用して、社会問題における欠落部分を埋めていく営為。
②　社会問題の発生を「足りない」という現象に見、国民を強要することなく欠落を埋めていく営為。
③　問題を、「足りない」という観点から取り上げてスローガンにし、その欠落を埋めていく営為。
④　多様な現象から共通の「足りない」部分を発見し、国民の心理的参加を期待してその欠落を埋めていく営為。

問４　次にあげる①〜⑤のうち、本文の論旨に合うものを○、合わないものを×とせよ。
①　今の日本には、全国民的目標らしきスローガンはなく、無目的ゆえの不安と不満が潜在的に存在している。
②　「さまよえる」日本人という現在の日本人のあり方は、明治以来の日本の基本的な姿であった。
③　「負の充足」は、長いスローガン時代における共通の主題であり、スローガンなき現代にも形をかえて残っている。
④　「負の充足」のスローガンの成立している時代には、「さまよえる」状態は出現しない。
⑤　スローガンへの参加には、実質的参加と心理的参加とがあり、心理的参加の方がスローガンが消えた後の挫折感が深い。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　知識モノ解説

語句

スローガン↓標語・モットー　もともとはスコットランド高地兵の鬨(とき)の声、雄叫び

自若＝じじゃく↓大きな事件に出くわしても落ち着き動じないこと

四字熟語で「泰然自若」＝たいぜんじじゃく

放浪者＝ほうろう↓自由にさすらうひと＝バガボンド

cf遊牧民↓ノマド・定住民に対することば　エグザイル↓流罪、亡命

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第八講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）カクメイ的な変化が到来した　①明　②命　③銘　④迷　⑤冥

（イ）ザイライの方向へ進む　①財　②剤　③斉　④西　⑤在

（ウ）すべての住民をドウインする　①員　②院　③因　④引　⑤姻

（エ）資料を簡単にヨウヤクする　①訳　②役　③躍　④厄　⑤約

（オ）自分の時間をギセイにする　①義　②儀　③議　④犠　⑤蟻

（カ）国民のショトクを上げる　①初　②諸　③所　④署　⑤庶

（キ）農産物のフカ価値を考える　①不　②負　③付　④符　⑤賦

（ク）ホウロウの旅に出発する　①浪　②老　③朗　④廊　⑤狼

（ケ）参加を強くキョウヨウする　①用　②要　③庸　④拗　⑤様

（コ）失敗しザセツ感を味わう　①拙　②節　③切　④刹　⑤折

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　現代社会論

《本文の対比構造》

主役

筆者の見解＝現代日本の特徴

＝「さまよえる」＝目標を失っても精神だけ静止せず、よろめいている状態・不安と不満のなかでさまよう／人類の長い歴史においても実は「さまよってきた」・目標はなくても日々の生活を積み重ねる

主な対比

小さな対比

敵役

明治から戦後の特徴

＝「スローガン」

＝国民的目標設定・「負の充足」

脇役

スローガンなしでも堂々とさまよう・自若

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《傍線部正誤問題》

今回の主役つまり現代日本のキーワードの言い換えを問うています。《本文の対比構造》の通り、①は小さな対比相手に該当するもので、対比混乱の誤りです。④は、最大の敵役である「スローガン時代」の説明です。「しらじらしー！」と叫んでしまいそうです。当然対比混乱の誤りです。②と③が合致します。

問２《傍線部説明・選択肢》

スローガンがあった明治から戦後しばらくの期間こそ、実は、特異な奇妙な時代であったわけです。大昔から人類は、大目標をかかげたり、ねじり鉢巻きしたり、シュプレヒコールなどあげたりせず、粛々（しゅくしゅく）と日々の営みを続けてきたのです。天候に左右されたり、収穫があがるだろうかと不安をかかえながら、それを「当然」とし、さまよいながら、例えば稲作を続け、牧畜を続けてきたのでしょう。それらを「稲作文化」、「牧畜文化」と呼ぶけれども、けっして「オレたちは、今日から稲作文化でいくぜ！　イエイ」「稲作を断固死守するぜ！　オー！」とやったわけではないのです。こういうわけで④が正解です。①の「自若」では小さな対比混乱の誤りです。②は「スローガンが設定」ですから大きな対比混乱の誤りです。③は「独自の文化」はよいですが、後半の「失わないようにする」がスローガンになってしまいます。これも対比混乱の誤りです。

問３《傍線部説明・選択肢》

スローガン時代のキーワード解説です。①の「心理状態を利用」、②の「強要することなく」、④の「心理的参加を期待」が、それぞれ「心理的な参加を強要」という記述に反する誤りです。③が正解です。なお、④の「多様な現象から共通の『足りない』部分を発見」では、スローガンはたった一つになってしまいます。この点も記述に反する誤り。

問４《全文理解に基づく正誤問題》

②と③は「現在（現代）」「さまよえる」と「明治以来」「スローガン」との対比関係をごちゃまぜにした、典型的な対比混

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

乱の誤り。⑤は「実質的参加」と「心理的参加」をあたかも対比であるかのように表現していますが、そのような比較はまったくありません。正しい対比喪失の誤り、その典型です。①と④が本文の記述に合致しています。

模範解答

問１　①＝×　②＝○　③＝○　④＝×　問２＝④　問３＝③　問４　①＝○　②＝×　③＝×　④＝○　⑤＝×

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第八講

（ア）②
（イ）⑤
（ウ）①
（エ）⑤
（オ）④
（カ）③
（キ）③
（ク）①
（ケ）②
（コ）⑤

解答漢字一覧

（ア）革命
（イ）在来
（ウ）動員
（エ）要約
（オ）犠牲
（カ）所得
（キ）付加
（ク）放浪
（ケ）強要
（コ）挫折

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。